

厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

三岐鉄道北勢線 阿下喜駅



もくじ

新年のごあいさつ	2
地域包括ケア病棟を開設しました	3
緩和ケアチームにおける社会福祉士の役割とは	4
病院のケアを地域に“つなぐ”	5
訪問看護ステーション ふるさと	5
『南伊勢町福祉ふれあい広場』に参加して	6
第28回病院祭開催	7
治療食 紹介します	8

JA三重厚生連の基本理念

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、
組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに
暮らせる地域づくりに貢献していきます。

2018. Jan. #75

新年のごあいさつ



経営管理委員会会長

谷口 俊一

新年あけましておめでとうございませす。皆様におかれましては健やかな年をお迎えのことと存じ、心よりお慶び申し上げます。平素は厚生事業に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、TPP（環太平洋連携協定）から米国が離脱を表明し、米国抜きの11か国によってCPTPP（包括的及び先進的な環太平洋パートナーシップ協定）として大筋合意されました。また年末には日欧EPA（経済連携協定）が妥結し、農畜産物の大幅な市場開放が求められることとなります。本年は、日米FTA（自由貿易協定）の動向や規制改革推進会議での急進的な農業改革など、取り巻く環境はますます厳しくなりますが、JAグループは、農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活

性化を基本目標に、組合員の意見や要望に即した「自己改革計画」を策定実践し、改革の成果を積み上げてまいります。

医療・福祉分野では、超高齢社会の到来に向けて、増大する社会保障費の財源確保と削減に向けた施策が進められています。昨年は、三重県地域医療構想が策定され、2025年における医療需要と必要病床数、目指すべき医療提供体制の方向性が示されました。また、公的医療機関等2025プランの策定が求められ、本会においても各医療機関ごとの今後地域において担うべき役割、これからの病院機能の在り方、方向性等について議論していくこととなります。本年は、診療報酬・介護報酬の改定、第7次三重県医療計画の改訂が予定されております。

このような状況の中、JAグループの一員として組合員及び地域住民の皆様が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせるよう、選ばれる病院づくりを目指し、役員一丸となって邁進する所存でございます。今後ともお一人層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



代表理事 斎藤 義則

斎藤 義則

新年明けましておめでとうございませす。皆様には健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、平素は本会事業に対し、暖かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成30年は三重県厚生連にとって大きな節目の年となります。平成16年より経営の健全化を図るため、財務改善計画を策定し「平成31年度に固定比率100%を達成すること」を最優先課題として取り組んで参りましたが、ようやく本年、2年前倒しで経営の健全化目標を達成することが出来ました。

本年以降は次の段階として、次期施

設整備が着実に実行出来るよう、建築資金の内部留保を最優先課題として取り組んで参ります。

また、平成30年度は診療報酬・介護報酬同時改定の年でもあり、国が地域包括ケアシステムの構築を推し進めている中で、節目の改定であります。大方の予想通り診療報酬はマイナス改定となりました。少子高齢化の進展により、医療環境も大きく変わつつある中で、今後更に厳しい経営を迫られることとなります。

一方、JAを取り巻く環境も、安倍政権の続投も相俟って、JAの総合事業の解体を推し進めるかのごとく政府の改革圧力は強まっております。益々厳しさを増しています。この危機に対しJAグループ一丸となって乗り切っていくかねばなりません。

医療・農業を取り巻く環境は一段と厳しくなっておりますが、新年度も本会基本理念のもと、組合員および地域住民の皆様が安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献するため、役員一丸となって取り組んでいくことをお誓いし新年の挨拶いたします。

地域包括ケア病棟を開設しました

三重北医療センター 菰野厚生病院

副看護部長（地域包括病棟）

岡田 弘美



当院は、本年8月より地域包括ケア病棟を開設しました。病床数は42床で看護師、介護福祉士に加え、専任の理学療法士や専従の社会福祉士が配置されています。

急性期の治療が終了後、ADL（日常生活動作）の維持向上や在宅の療養環境の準備、施設入所までの調整期間が必要な患者さん、在宅療養をされている方の介護者の負担軽減や急病などに対応したレスパイト入院、また、短期滞在型の泌尿器科手術や上肢の骨折、保存的治療を目的とした脊椎圧迫骨折などの患者さんの受け入れを行っています。

地域包括ケア病棟の役割の一つに在宅復帰支援があります。看護師は、入院前の生活に戻ることができるよう、患者さんを「生活者」として捉え、AD



看護師と一緒にリハビリ訓練



レクリエーションでの体操



ケアマネカフェの様子



「退院おめでとうアーチ」で見送ります

Lや利用していたサービスなど、自宅での生活状況を具体的に聞き取りしています。理学療法士と共にADLを確認し、セラピストによる訓練とナースリハビリを行うとともに、ADLの維持向上が図れるよう取り組んでいます。

昼食前には、介護福祉士による嚥下機能の維持や誤嚥防止を目的とした健口体操や午後にはレクリエーションの時間を設け、歌に合わせた体操やゲームをして楽しんでいます。

また、在宅での生活を支えるケアマネージャーとの連携を大切にし、情報共有を図り、協働の体制を構築していきたいと考えています。これまで、「ケアマネカフェ」とネーミングし、近隣地域のケアマネージャーを招き交流会を3回開催しました。その中で認定看護師やフットケアの紹介を行いました。困ったときにお互いに相談しやすい関係づくり、情報やケアが繋がっていくよう、今後も更に連携を深め、地域の中で在宅療養を支える病棟として貢献していきたいと考えています。

※フットケア・・・タコ、ウオノメ、白癬等により肥厚した爪、巻爪の処置を行い、感染・傷の予防に努めること

緩和ケアチームにおける社会福祉士の役割とは

鈴鹿中央総合病院 医療福祉相談センター 社会福祉士 樋口雅彦

私は8年間のいなべ総合病院での勤務を経て、平成29年4月より鈴鹿中央総合病院へ赴任となりました。社会福祉士は医療福祉相談センターに所属しており、当センターは医療相談全般、がん相談支援センター、居宅介護支援事業所の3つの役割を担っています。

現在緩和ケアチームの専任として業務を行っており、今回は緩和ケアチームにおける社会福祉士の役割について紹介させていただきます。当院の緩和ケアチームは緩和ケア内科医、精神科医、がん看護専門看護師、薬剤師、臨床心理士、社会福祉士で構成されており、毎週月々金にカンファレンスを実施し、患者さんの状態について情報共有を行い、今後の治療方針や援助方針について確認を行っています。当初緩和ケアチームの一員として「社会福祉士である自分には何ができるのか」といった戸惑いが大きかったのですが、現在は緩和ケアチームとしての活動を通じて日々の治療プロセスに関わり、変化する患者さんの状態を把握し

た上で適切な社会資源に繋ぐことが重要であると感じています。最も印象に残ったケースに関して紹介させていただきます。胃癌のため予後1〜3ヶ月であると言われた患者さんにおいて医師や看護師の診察時に患者さん家族から「退院後の生活が不安である」と相談があったことを踏まえて緩和ケアチームの社会福祉士として介入を行いました。ADLや今後の治療内容についてチーム内で十分に情報共有を行いつつ、社会福祉士として面接を行うことで不安の根底には経済的な困窮があるということが明らかになりました。その後生活保護の申請手続きを行った上で自宅から通うことができる医療機関への通院を調整することで患者さんが望む自宅への退院を速やかに進めることができました。今回の事例は経済的な問題解決を行いつつ、患者さんが望む治療を患者さんが望む地域で続けることができたケースであり、今後地域でがん患者さんを支えていくための体制をそれぞれの地域

が地域の特性に応じて作り上げていくことが重要であると感じました。がん患者さんを地域で支えていくためには病病連携、病診連携、病福連携など様々な連携が必要ですが、社会福祉士が地域連携を一人で担うことは難しく、院内のあらゆる専門職と連携し、



緩和ケアチームとして対応を行うことが重要です。日々の業務を通じて地域関係者と顔の見える関係を構築し、「鈴鹿」という地域から必要とされる社会福祉士になることを目標に今後も努力を続けていきたいと思えます。

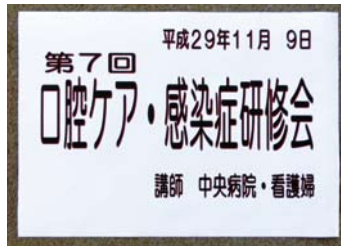
病院のケアを地域に「つながぐ」

松阪中央総合病院 感染管理認定看護師 若山 晃大



一般財団吉田福祉基金が開催する介護職対象の研修会に、感染管理認定看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師等4名の当院看護師が講師として参加させていただきました。

午前中は「生活の質をあげるための口腔ケア」、午後は「感染対策のポイントを知り実践しよう」をテーマに研修を行いました。私は、「感染対策のポイントを知り実践しよう」で、講義・グループワーク・演習を担当しました。



グループワークでは、各施設での感染対策について活発に話し合いが行われ、各々の取り組みを情報交換し、有意義な時間となったようです。また、多くの質問も受け、感染対策に関する意識の高さを感じました。

参加された皆様から、「具体的ですぐ実践できる」「口腔ケアの細かな内容がわかった」などの意見が聞かれ、質の高いケアの実践につながるのではないかと感じました。これからも、『病院のケアを地域に「つながぐ」をモットーに、地域のケアの向上に努力していきたいと思えます。



訪問看護ステーションふるさと

大台厚生病院 訪問看護ステーション長 森本 恵子

みなさんこんにちは。今回は「訪問看護ステーション ふるさと」を紹介いたします。

当ステーションは、平成11年の介護保険制度導入とともに開設されました。

今年で早や18年が経過しようとしております。当ステーションの移動範囲は山深き所から海辺まで100 km以上の広範囲となっており、また過疎高齢化が進み、老々介護や独居の高齢者も多く地域での生活が困難となり施設入所される方も多くなってきている現状です。3名の看護師が在籍し、地域連携室のMSW(社会福祉士)と協力して、地域医療に貢献しています。

私たちは、在宅生活において本人や家族の方の意向や思いに寄り添う看護を心がけています。最近では小児慢性特定疾患の患者さんやターミナル期の患者さんご家族の在宅生活の援助をする事が増えてきています。

毎年、松阪中央総合病院の研修医が地域医療研修の一環として大台厚生病

院で研修をされます。その際に訪問看護に同行していただき、患者さんから丁寧で親切に対応してくれると大好評です。「若い先生が来ると長生きできるわ!」と言ってくれる患者さんもおられ、私たちも大変うれしく思います。

今後も地域の人々が在宅で安心して生活を送れるように支援していきたいと考えております。



『南伊勢町福祉ふれあい広場』に参加して

南島メデイカルセンター 事務部長 見並邦久

平成29年12月3日、南伊勢町五ヶ所にあります南伊勢町町民文化会館に於いて、『平成29年度南伊勢町福祉ふれあい広場』が開催されました。社会福祉協議会が毎年開催する社会福祉大会に合わせ、昨年度からは、健康コーナーや各種団体の物販なども行われるようになり、より多くの方々に参加していただくようになりました。

当センターからは、来賓として式田センター長が出席し、数名の職員もスタッフとして、イベントのお手伝いにかがいました。今回は町立病院や役場の福祉課の方々とは協力して『健康コーナー』を開設し、骨密度チェック、血管年齢チェック、握力測定や子供向けの白衣体験などを行いました。訪問看護ステーションコーナーでは、在宅医療についての相談や血圧測定を行い、たくさんの方々に喜んでいただくことができました。

また、メインステージでは『社会福祉大会』が開催され、福祉作文について優秀な作品の披露が行われました。小

学校や中学校の学生たちの発表でしたが、実にしっかりとした視点から、過疎化の問題や、高齢者介護の現実を捉えていました。少子高齢化が県内で最も進行している当地域において、これらの課題は、非常に現実的なものです。

しかし、学生さんたちの発表からは、「だからこそ地域の繋がりがりや助け合いが必要なのだ」ということが前向きに語られており、日ごろから地域医療・介護福祉サービスを提供している私たちも、初心にかえる思いで聞かせていた

いただきました。
今後、地域住民との触れ合いを大切に、このような活動にも積極的に参加していきたいと思えます。



第28回病院祭開催

鈴鹿厚生病院 病院祭実行委員長 近藤 克哉

平成29年10月14日に鈴鹿厚生病院では第28回病院祭を開催しました。

今年の病院祭のテーマを『地域交流』とし、昨年の病院祭終了後から実行委員で開催内容を検討してきました。

今年度は10月に雨が多く、病院祭当日も雨天での開催となり、予定していた会場やスケジュールを急遽変更し、職員やボランティアでお手伝いをして頂いている地域の方々のお力を借り、中止すること無く予定していた全ての催しを行うことが出来ました。

病院玄関にて中瀬病院長の開会の挨拶のあと、テープカットが行われ、続いてベリィダンスで今年度は病院祭がスタートしました。

玄関前駐車場では、例年グラウンドで行っていたドラム缶焼き芋を行いました。

当院グラウンドでは雨の中でしたが、病院祭名物亀レースや、魚蔵さんの出来たてのはんぺんの販売、洋菓子なかにまさんの美味しいロールケーキ、わか菜の杜さんや、JA果菜彩さんの新



鮮野菜の販売、ココイチのカレーやロッケの販売、当院スタッフによる和ちゃんたこ焼きや、ケンちゃん焼きそば、フランク、焼き鳥等の販売をテントを張って行いました。

リハビリ棟では、つきたてのお餅の無料配布やバザー、作業療法の体験、当院

利用者さんが作成された作品の展示、近隣作業所にて作成された手作り雑貨の販売、血圧測定等が行われました。

プレイフロアでは、スパーボールすくいやヨーヨーつり、吹き矢などのアトラクションの他、今年初の試みで白衣体験なども行いました。

体育館では、本来青空の下で開催を予定していた、みそら保育園児による遊戯、県内の著名よさこいチームによる演舞、オープニングも飾って頂いたベリィダンス、当院の医師によるわたがしの振る舞いや、エア遊具「ふわ笑美ちゃん」、当院スタッフによるバンド演奏などが行われました。

当日はあいにくの天気でしたが、来場して頂いた方々からは、楽しかった、美味しかった等のお言葉や満足できたとのアンケートの回答を頂き、本当に有り難い限りでした。

当院の理念は『ささえあい、ともに生きる』です。地域の方々や当院のスタッフにささえられながら、今年も病院祭を無事終了できたことに本当に感謝します。ありがとうございました。

治療食

紹介します ③ 心臓病食

松阪中央総合病院 栄養管理科長 北岡伊久子

病院食には、「一般食」と「特別食(特別治療食)」があります。
一般食は、特別な制限がない食事で、流動食から五分粥食、全粥食等の段階食や常食、嚥下調整食などがあります。特別食は、疾患に応じた食事療法が必要な食事で、医師の指示に基づいた制限のある食事となります。

【心臓病食】

1日 1800kcal
蛋白質 70g 塩分 6g



心臓病は、塩分や脂肪の多い食事に偏った生活習慣が、大きな要因の一つと考えられています。

心臓病食は一日食塩6g未満とし、野菜や海藻・きのこなど一日350g以上を目標にしています。塩分・脂肪・エネルギーを調整した食事です。

●調理のポイント

主菜は基本、煮る・焼く・蒸すなどの、油を控えたメニューとなります。旬の食材を使い、酸味・香味を生かして薄味でもおいしく食べられるよう工夫しています。

●作り方(材料 1人分)

180g

《ごはん》

《親子煮》

- 鶏胸肉…30g
 - 卵…40g
 - 玉葱…50g
 - 高野豆腐…7g
 - 三つ葉…10g
 - しょうゆ…7g
 - さとう…5g
 - 出し汁
- 三つ葉は最後に入れ、彩りや香りよく仕上げる。

《ツナサラダ》

- ツナ水煮…10g
- きゅうり…20g
- キャベツ…40g
- 人参…10g
- マヨネーズ…5g

《さつま芋重ね煮》

- さつま芋…50g
 - りんご…50g
 - 干しぶどう…2g
 - さとう…5g
 - 塩…0.1g
- さつま芋・りんごは2cmの角切りにする。ひたひたの水で、水気が無くなるまで、煮込む。

栄養量

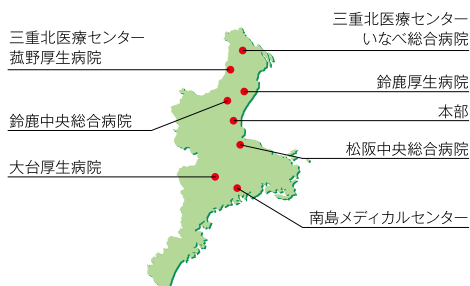
1食1人分

エネルギー	684kcal
蛋白質	23.4g
脂質	14.7g
塩分	1.6g

JA三重厚生連

看護師 看護補助員 助産師 介護福祉士 募集

人に 地域に やさしい看護



厚生連だより #75

2018.1発行

発行/ 三重県津市栄町1丁目960番地

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354

http://www.miekosei.or.jp/ Email:info@miekosei.or.jp

